



国際交流課国際交流担当・TEL224-8811内線2142

国内の姉妹・友好都市

児童・生徒の作文⑥

教育指導課指導係
TEL224-8811内線2925

平成十六年度に川越市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけぼの」から、作品を紹介します。

幸せの使者②

小学六年生

ん。

「おいしい」交流ができました

農林業を基幹産業として発展

してきた棚倉町のテントには、こんにゃく製品・漬物・

きりげたなどが並び、宿泊型スポーツ施設であるルネサンス棚倉のPRもありました。

古くから都に食を供給してい

た「御食国」である小浜市のテントでは、魚介類や海藻など海の幸が並んでいました。

中札内村も参加して、

それぞれの特産品の販売と観光PRを行いました。同会場

のステージでは、各姉妹・友好都市の特徴や歴史、観光などについて紹介する「ゆめい

つぱいインフォメーション」を開催。多くの人々が集まつて、興味深く説明を聴いていました。

姉妹・友好

海道の中札内村も参加して、

妹・友好都市である福島県の棚倉町、福井県の小浜市、北

ななぐらまち

にぎわう小浜市のテント

万るもの来場者がありまし

た。そのにぎわいの中、姉妹・友好都市である福島県の棚倉町、福井県の小浜市、北

は幸せの使者や。」

と言いました。私は、

「なんで、あたり前だよ。Aちゃん

さんは車イスなんだし。」

と言いました。お母さんは、こう答えました。

「だつて、Aちゃんと道をゆづつてくれた車も、ドアを開けてくれた人も、きっと、『ああ、いいことをした』って、一日中いい気持

持ちにして人を優しくさせたん

よ。あんたも、ささいなことでええからしてあげや。」

確かにその通りです。人を優しく気に持つにさせる能力をもつAちゃんは、幸せの使者かもしれませ

す。でも、Aちゃんだけでなく、だれでも人を幸せにすることができる。友達が笑うと、とてもあたたかい気持になります。声をか

けると心がつながります。とても簡単なことです。私たちは、それ

ような心のコミュニケーションで、人をなぐさめたり、なぐさめられたりしたら、手と手をつなぎで生きて行けるのではないでしょ

うか。

そのことを気づかせてくれたAちゃん、お母さんに感謝していました。

*ふりがなは広聴広報課で付けました。



暮らし広がる
地域の
自治会活動から

大江戸に連雀町パワー爆発!!

10月29日・30日に千代田区で開催された江戸天下祭に、連雀町の山車が参加。30日の山車・御輿巡行では、日比谷公園から高層ビル街や東京駅前を練り歩きました。メインステージ近くでは、前を巡行していた鴨川市の山車と曳かわせを行うというハプニングも……。「町内の150人が参加しました。今後も機会があれば市外にぜひ行きたいという声が上がっています。川越のPRにもなったのではないか」と自治会長の伊藤義郎さん(74歳)。



イチヨウ並木を進む連雀町の山車



にぎわう小浜市のテント

で入れること

のできない特

產品が並び、

連日大盛況となりました。